

財団法人 都市化研究公室殿

向島における路地園芸調査及び上十条における路地園芸の実施

実施報告書

平成18年4月

活動支援団体： 特定非営利活動法人日本都市計画家協会

活動実施団体： 全国路地のまち連絡協議会

向 島 学 会

目 次

はじめに

向島における路地園芸調査

1. 調査の概要.....	3
2. 現地調査.....	6
3. アンケート調査.....	8
参考資料.....	16

上十条における路地園芸の実施

1. トライアルの目的.....	21
2. 対象地区.....	21
3. トライアルの方法.....	24
4. 第2回ワークショップにおける参加者提案.....	25
5. 路地園芸の実施.....	27

はじめに

活動の目的

わが国には、伝統的に数多くの路地のまちが残っています。多くは木造密集市街地であるため、防災上の問題があり、また自動車の利用が円滑にできないということから、負の遺産として一般的に認識されている状況である。

しかしながら、そこにはしっかりした住民のコミュニティが形成されていたり、路地の持つ魅力が多くの人をひきつけていたり、或いは車が入りにくいことが子供や高齢者の安全な生活の場を提供しているなど、都市にとって重要な役割を担っている面もある。

この路地には、小規模な宅地、密集した建物のまちが展開しているが、意外と緑が多いという印象があり、これが路地の魅力を高め、地域の環境形成に大きく寄与していると考えられる。

またかつての江戸園芸の伝統を引き継いでいるという側面もあり、都市全体の魅力形成という観点からも意義のあるものと評価している。しかしながら、これまでその実態や、さらにそれをどのように進めて行くかという点については、検討された例が無い。

以上の趣旨から、向島と上十条という路地のまちをとりあげ、路地園芸の実態を把握し、また路地園芸の魅力向上やまちづくりのあり方を探ることを活動の目的としている。また初めての取り組みであることから、またこの活動が今後の各地での路地園芸取り組みのための基礎となることを期待している。

実施体制

活動の実施にあたっては、全国路地のまち連絡協議会及び向島学会が中心となったが、そのほか、次の団体等の支援・強力を得た。

向 島： 墨田区役所、東京工業大学真野研究室

都立向島百花園管理所所長 椎名和美氏

地元団体（一寺言問を防災のまちにする会、東向島中町会、東向一南町会、東向島宮元町会）

上十条： 北区役所、財団法人北区まちづくり公社、㈱グリーンダイナミクス

地元団体（上十条一丁目西町会、十条あすみの会）

向島における路地園芸調査

1. 調査の概要

本調査は、向島地域内で従来より防災まちづくり活動が活発な「一寺言問防災生活圏」内の旧寺島一丁目地域(東向島一丁目、三丁目)を対象として実施した。(図1参照)

なお、今回の調査に当たっては、調査地域内を町会の単位や町並みの状況に応じて8区域に分割して調査分析を行うこととした。(図2参照)

調査は、全体的な路地園芸の実体を定量的に捉えようとする「アンケート調査」と、実際の路地園芸の姿を捉えようとする「現地調査」で構成した。

「アンケート調査」は、対象地域内の約2500世帯の内、マンションやアパートなどに居住する世帯を除いた約1800世帯を対象とし、無記名アンケートとした。配布は地元町会の役員さん達のご協力をいただき各戸に配布し、回収は東京工業大学の真野研究室のご協力をいただき郵送回収とした。回収数は、約一割にあたる180件となった。配布は、3月1日～7日とし、締め切りは3月15日とした。

「現地調査」は、下記の日程・メンバーで実施した。

3月16日 全体調査。対象地域内を見て回り、一群の路地園芸が実施され、かつ、地域個性を持つ5カ所の対象路地を絞り込んだ。(図2参照)

3月25日 2班に分かれ、5カ所の対象路地の詳細調査をおこなった。

なお、現地調査にあたっては、墨田区で行政とともに区内の環境緑化につとめている「緑と花のサポーター」のメンバーのご協力をいただいた。

現地調査メンバー

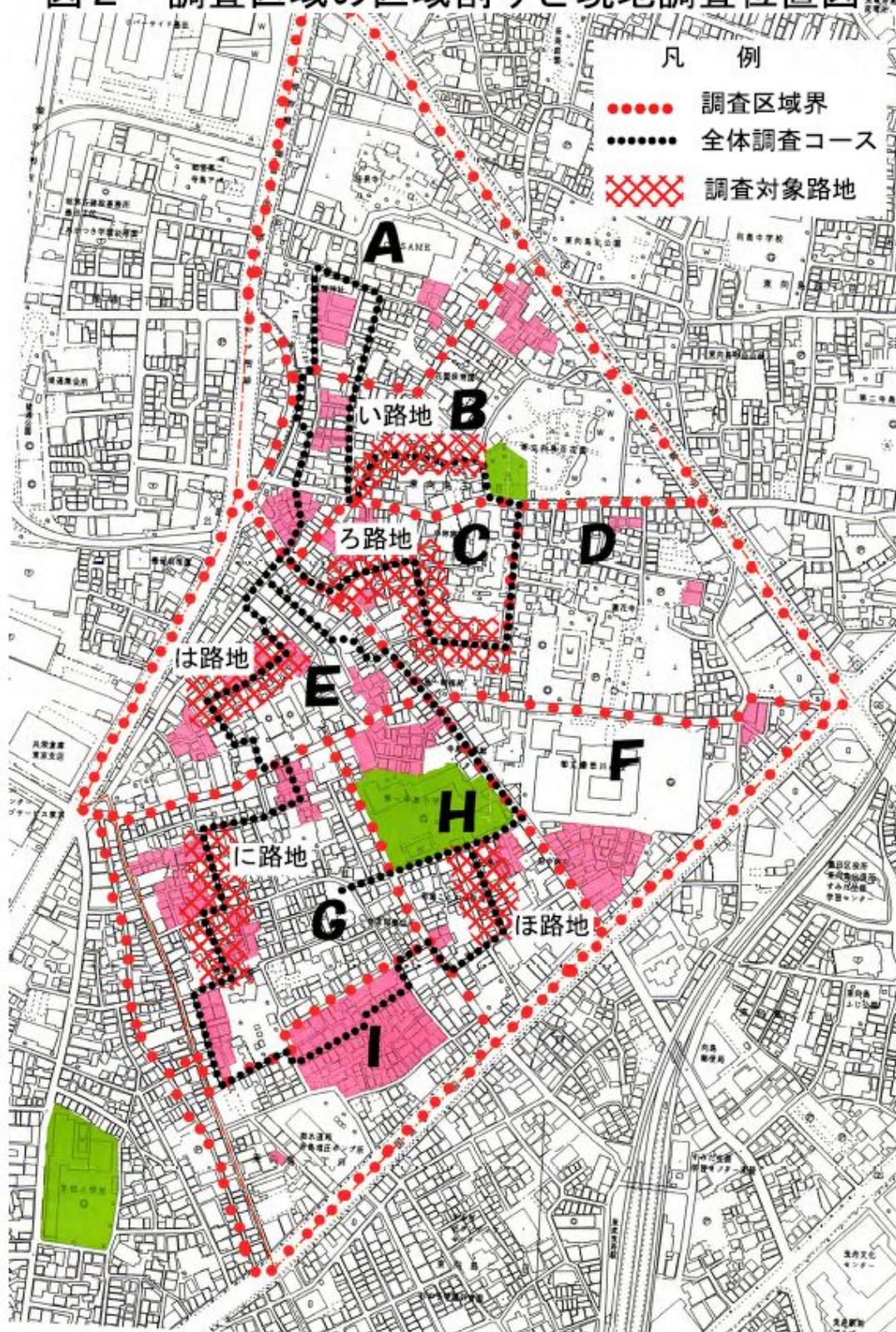
緑と花のサポーター:鈴木・五十嵐・田所・柳田・三枝・高津・依田・宮島・横倉

宇野・森(区職員)、佐原(向島学会)、木村(路地協)、原口(東工大)

なお、本調査は、墨田区の後援をはじめ、「一寺言問を防災のまちにする会」「東向島中町会」「東向一南町会」「東向島宮元町会」の地域団体、また東京工業大学真野研究室のご支援・ご協力をいただき実施できた。また、調査の企画などのに関して、墨田区役所環境保全課 宇野節子氏、都立向島百花園管理所所長 椎名和美氏のご指導・ご協力をいただいた。

幹事 今井晴彦(路地協) 佐原滋元(向島学会)

図2 調査区域の区域割りと現地調査位置図



2. 現地調査

2-1 調査実施要領

本調査地域は、北東西の三方を、明治通り(都道)、水戸街道(国道)、墨堤通り(都道)の高規格街路に囲われているが、内部の街路は、ようやく対面交通ができる程度の地蔵坂通りを除き、ほとんどが4m未満の街路で構成されている。また、いわゆる下町と言われる町並みには、ほとんどの家に庭が無く、住居併用の商店や工場が混在している。

しかし、路地園芸をまちのあちらこちらで見ることができ、緑被率が低い地域であるものの、目に入る緑は多い地域である。

全体調査では、主に細街路での路地園芸の実体を把握するため調査コースを設定し、調査後、以下の判断基準から対象とする路地を選ぶことにした。

- 1, 路地に面した過半の家屋で路地園芸をやっている一団の路地を選定する。
- 2, 自動車の交通量や人の通行など、路地の交通状態が比較できるような路地を選択する。
- 3, 以上の条件を満たすような、連続する路地も一団の路地と考える。

その結果、以下の5グループを調査対象路地として設定した。

「い路地」

昔は続いていなかったが、防災まちづくりの一環で整備され、一本の街路となった路地。自動車の通行は、東側の入り口近くに、マンションのき居住者用の駐車場やのその後にできた駐車場への通行路となっているため若干増えたものの、それ以外の通行はほとんどない。

路地を繋ぐ時に、余剰の土地を広場と整理して、地域利用型の雨水貯留施設などを設けている。この広場は近隣住民の自主的な管理となっており、自宅で育てた鉢植えの内、一番出来の良いものを持ち寄り展示している。

「ろ路地」

3本の連続する路地をグループとした。

「ろー1」は、自動車の通行は困難なため自動車通行はないが、商店街へ抜けるの道として人の通行は比較的多い。しかし、「ろー2」は、一方通行ではあるが地域内の通り抜け道路として自動車の通行は比較的多い。また、「ろー3」は、道幅は広いが、居住者の車両以外ほとんど自動車の通行はない。

また、対象の路地からはずれてはいるが、非常に良いしつらえの事例があり、参考のために

調査の対象とした。

「は路地」

全体的に路地の幅員は狭いが、特に西側の入り口の部分がせまく、自動車の通行は不可能な路地となっている。人や自転車の通行も居住者以外はほとんどない。

「に路地」

3本の連続する路地をグループとした。

いずれの路地も、幅員は自動車がやっと通れるくらいであるが、「に一2」は比較的地域内移動の自動車の通行が多い。「に一3」は、年末に舗装と縁石の工事を行ったため、それまでの植木などはほとんど片づけられ、現在は、比較的小さな植木鉢が仮に置かれている程度であったので、植物についての調査は割愛した。

「ほ路地」

地域内で比較的古くから(大正年代)から開かれた長屋形式の路地。中央に当時は生活用水として利用された井戸がある。通行は居住者以外ほとんどない。

2-2 現地調査のまとめ

現地調査のまとめとして、以下のような所見をあげることができる。

- 1, 縁石がある路地については、縁石上に置く鉢などはあるが、比較的、縁石より通路側にはみ出しているものは少ない。縁石がない部分については、通路との境目が不明になっているものが多い。
- 2, 幅員3m程度以下の路地では、あまり日当たりを気にしないで育つ植物が多い。
- 3, 限られた空間で、最大限の草花を育てようとする苦勞が感じられる。
- 4, 全体的に、草花の種類は多様であるが、数種類の草花を効果的に配置し、まとまりのある園芸空間を作りだしている家も見られた。
- 5, 植え方としては鉢物が多いが、鉢の種類がバラバラで、まとまりを欠くものが多かった。

全体として、草花を育てようとする意欲は多く、見てもらうための工夫が加われば、路地の中にすばらしい園芸空間が生まれる可能性が高いものと考えられる。

路地園芸アンケート調査報告

回収率と回答者の内訳

アンケートは右図の地区内のマンションを除く一軒家、長屋等に約 1800 通配布され、そのうち 181 通が回収された。

対象地域を右図のように 9 つの区域に分けて区域ごとに特性をみる。各区域からの回収数は表 1 のとおりで、区域 G からの回収数が多かった。表玄関がどのような広さのみに面しているかという間には、表 2 のような結果が得られた。路地に面しているとした回答が最も多く、大通りに面しているとの回答は少なかった。この結果は配布された対象家屋全体の割合に近いと思われる。植物を育てているかという設問には大半が「育てている」と答えた（表 3）。この設問では区域 H において回答の割合に変化が見られた。他の地区は 75% 以



図 1 配布地域と区域分け

表 1 回答者の区域属性

区域A	区域B	区域C	区域D	区域E	区域F	区域G	区域H	区域I	無回答
17	25	17	14	19	12	32	18	15	12
9%	14%	9%	8%	10%	7%	18%	10%	8%	7%

表 2 玄関が面している道の広さ

大通りに面している	比較的広い道に面している	路地に面している	無回答
18	67	84	12
10%	37%	46%	7%

表 3 植物を育てているか

育てている	育てていない	無回答
138	33	10
76%	18%	6%

上が「育てている」と答えているのに対し、区域 H は「育てている」が 10 件「育てていない」が 8 件と数に大きな差が見られなかった（図 2）。

また、面している通り別に植物を育てている割合を見てみると、道が狭くなるにつれて育てている人の割合が増えていくことが確認された。

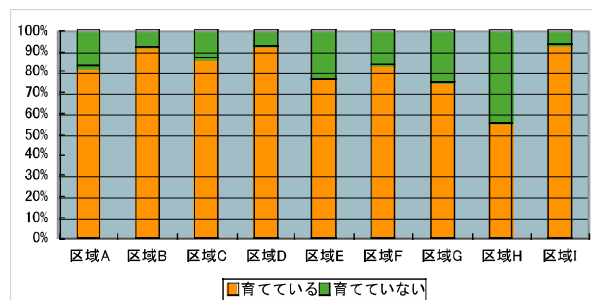


図 2 植物を育てているか

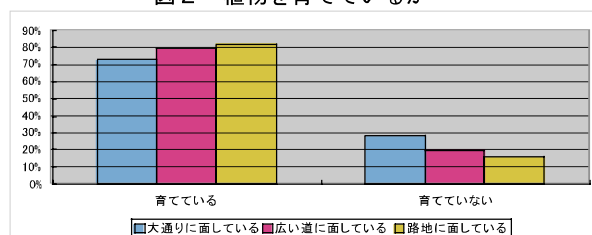


図 3 面している道の広さと植物を育てている割合

植物を育てている人の回答傾向

設問4の植物をなぜ育てているのかという質問は、当てはまるものひとつにと指示していたが、複数回答が多く見られた。植物を育てる動機はひとつではないということであろう。50%の人が植物が好きだからと回答している。次33%の人が楽しいからと回答した。人に見てもらいたいという回答は11%、目隠しとしてと答えた回答は4%であった。

設問5の植物の入手方法についての質問では76%が園芸店で購入すると答えた。次いで知り合いから分けてもらうという人が34%であった。区の配布会でもらうという人は1割に満たなかった。

設問6では育てている植物について質問した。この質問には109人から回答が得られた。最も多く書かれていたのがバラで19件、次に梅の17件、椿の15件であった。以下朝顔、山茶花、サツキ、アロエ、パンジー等が多く上がっていた。また最初に書かれた名前だけを見てみると、椿9件、バラ8件、パンジー、桜、梅各5件であった。

設問7では植物をどのように育てているかについて訪ねた。大半の87%が「植木鉢で育てている」と回答した。続いて「露地植え」が43%であった。その他の回答は10%未満であった。この設問の回答のうち、「庭などに露地植えしている」という回答には区域で差が見られた。区域Dでは71%の人が露地植えしているのに対し、区域H,Iでは20%以下である。地図で見ると区域H、Iは土地が狭く、密集度が高いのに対し、区域Dは比較的土壌が広がっているのが分かる。また設問7への回答率を道の広さ別に見てみると図5のようになる。露地植えは道が狭い程割合が上がり、鉢植えは広さに関係なく割合が高かった。建物の壁面に沿わせているという回答も道が狭い程高くなっている。

設問8では園芸に関する情報をどこから得ているかについて聞いた。全体的に回答が得られたが、「園芸店」「無手勝流」が30%を超える一方、「区の講習会や学習園」という回答は2%であった。

設問9では一年間に園芸にかかるお金について訪ねた。「ほとんどかけない」と答えた人は28%で「5万円未満」と答えた人は57%であった。この回答にも区域によって差が見ら

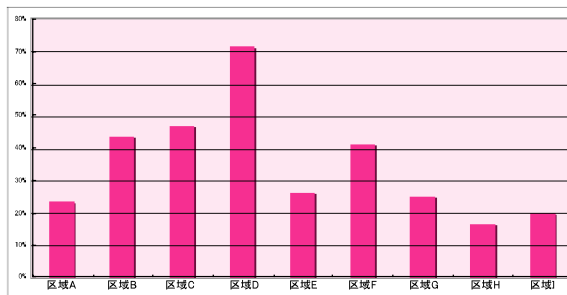


図4 「露地植え」の区域別回答率

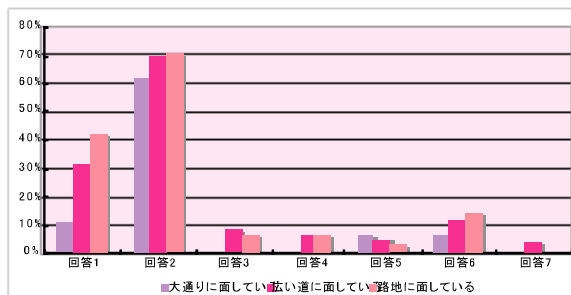


図5 面した道の広さと園芸のスタイル

1. 庭などに露地植えしている
2. 植木鉢で育てている
3. バスケットで育てている
4. 生け垣を設けている
5. 屋上緑化をしている
6. 建物の壁面に沿わせている
7. その他

れた（図6）。

設問10では区からの補助等を利用したことがあるかどうかについて質問した。大半の83%が利用したことがないと回答した。利用したことがあると答えた人の中では「グループ緑化」が5件、

「生垣緑化」が4件となり、うち5件は区域Cからの回答であった。「植樹帯」「屋上緑化」との回答はなかった。

設問11では植物を育てていることで抱えている悩みについて聞いた。最も多かったのは「虫」という回答で37%、続いて「不在の時の管理」25%、「肥料や土」24%であった。「近所からの苦情」との回答は1件もなく、「その他」の回答の中にネコのふんに悩んでいるという回答があった。「特にない」という回答は28%であった。

設問12では植物を育てる際に配

慮していることを聞いた。「防虫」と「清掃」という回答が4割以上であった。道に置いた鉢が通行の邪魔にならない様に気をつけている。という記述が幾つか見られた。各回答を道の広さ別に見たものが図7である。

道の広さに関わりなく「防虫」「落ち葉等の清掃」が多くなっている。通路の確保に配慮していると答えた人の割合は路地に面している人よりも広い道に面している人の方が多くなっている。道が狭くなると交通も限られてくるためであろうか。

設問13では行政にやってほしい援助があるか訪ねた。この設問では無回答が多く68%であった。回答があった中では、「植木市等の開催」20%、「防虫や病気の予防講座」22%という回答で数が多かった。区域別では、「防虫や病気の予防講座」という回答が、区域E、F、Hではほとんどなかったのに対し、区域Iで40%と高い割合で回答があった。

植物を育てていない人の回答傾向

設問14、15では設問3で「育てていない」と答えた人に回答してもらった。「育てていない」と回答したのは33件と少なかったため、区域別の分析は行わなかった。

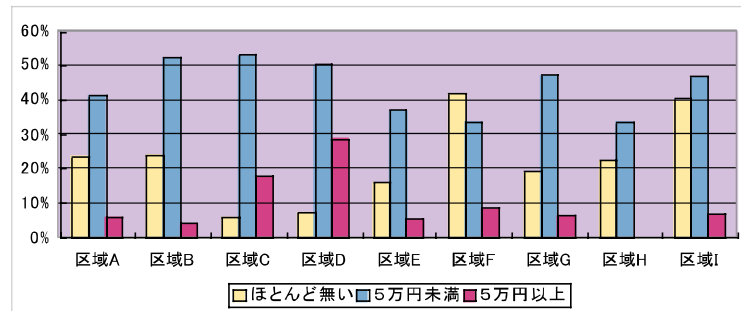


図6 1年間に園芸にかけるお金

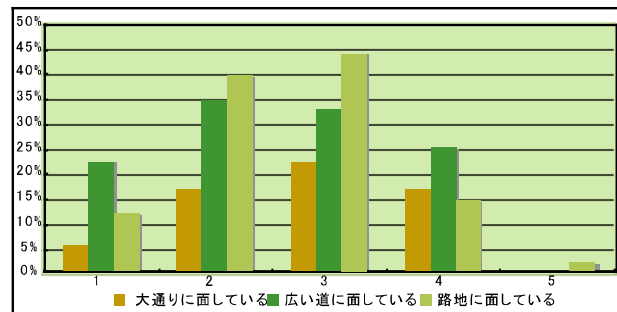


図7 (設問12) 道の広さと配慮していること

1. 通行の確保 2. 防虫等 3. 落ち葉等の清掃
4. 特にない 5. その他

設問 1 4 の植物を育てない理由としては、「植物を育てる場所や植木鉢などが無い」「植物を育てる時間がない」といった回答が多く、「植物が嫌い」と回答したのは 2 件であった。

設問 1 5 では路地園芸に対する意識をたずねたが、この質問には「育てている」と回答した人からの「よいことだと思う」という回答が多かった。その回答を除き、「育てていない」人の回答を集計した。「よいことだと思う」39%、「やってみたい」27%が多く、「育てていない」人が路地園芸に対して好意的であることがわかった。「迷惑だと思う」と答えたのは 5 件であった。

参考資料：各設問とそれに対する回答結果

設問１ 現在のお住まいは、同封の地図でどの区域に当たりますか？

区域A	区域B	区域C	区域D	区域E	区域F	区域G	区域H	区域I	無回答
17	25	17	14	19	12	32	18	15	12
9%	14%	9%	8%	10%	7%	18%	10%	8%	7%

設問２ 現在のお住まいは、どのような道に面していますか？

大通りに面している	比較的広い道に面している	路地に面している	無回答
18	67	84	12
10%	37%	46%	7%

設問３ 現在、お住まいで植物は育てていますか？

育てている	育てていない	無回答
138	33	10
76%	18%	6%

設問４ 植物を育てていらっしゃるのなぜですか？

1. 植物が好きだから 2. 家の前を美しくしたいから
 3. 植物を育てることが楽しいから 4. 育てた植物を人に見てもらいたいから
 5. 目隠しとして 6. 昔から植物があったから 7. その他（ ）

当てはまるものひとつにと指示していたが、複数回答が目立った。動機はひとつではないという事だろう。集計は複数回答と見なして行った。半数の人が植物が好きだからと答えている。

回答番号	1	2	3	4	5	6	7	無回答
回答数	68	36	45	15	5	17	7	1
	50%	26%	33%	11%	4%	12%	5%	1%

設問５ 植物はどういったところで手に入れていますか？

1. 園芸店等で購入する 2. 知り合いから分けてもらう 3. 植木市等で購入する
 4. 頒布会などでもらう 5. 山野から採ってくる 6. 区の配布会でもらう
 7. その他

回答番号	1	2	3	4	5	6	7	無回答
回答数	105	47	37	4	2	11	4	1
	76%	34%	27%	3%	1%	8%	3%	1%

設問6 主にどのような植物を育てていますか？

この質問には109人から回答があった。特に多く書かれていたのは、梅、バラ、紫陽花、さつき、柿、金木犀、山茶花といったものであった。

設問7 植物はどのように育てていますか？

1. 庭などに露地植えしている
2. 植木鉢で育てている
3. バスケットで育てている
4. 生け垣を設けている
5. 屋上緑化をしている
6. 建物の壁面に沿わせている
7. その他（ ）

回答番号	1	2	3	4	5	6	7	無回答
回答数	60	120	11	9	6	22	2	1
	43%	87%	8%	7%	4%	16%	1%	1%

設問8 園芸に関する情報はどこで手に入れていますか？

1. 雑誌
2. 知り合い
3. 園芸店
4. テレビ
5. 無手勝流
6. 区の講習会や学習園など
7. その他（ ）

回答番号	1	2	3	4	5	6	7	無回答
回答数	40	40	54	31	47	3	12	6
	29%	29%	39%	22%	34%	2%	9%	4%

設問9 一年間に園芸にかかるお金はいくらくらいですか？

1. ほとんど無い
2. 5万円未満
3. 5万円以上

回答番号	1	2	3	無回答
回答数	38	78	15	6
	28%	57%	11%	4%

設問10 墨田区からの補助等を利用したことはありますか？

1. 利用したことがある [☐ グループ緑化 ☐ 生垣緑化 ☐ 植樹帯 ☐ 屋上緑化]
2. 利用したことがない

回答番号	1	1	1	1	2	無回答
回答数	5	4	0	0	115	14
	4%	3%	0%	0%	83%	10%

設問 11 植物を育てていることで抱えている悩みはありますか？

1. 肥料や土 2. 虫 3. 情報 4. 水 5. 栽培場所の広さ
6. 落ち葉 7. 不在のときの管理 8. 近隣からの苦情
9. 特にない 10. その他（ ）

回答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無回答
回答数	33	51	1	14	18	21	35	0	38	10	13
	24%	37%	1%	10%	13%	15%	25%	0%	28%	7%	9%

設問 12 植物を育てる際に配慮していることはありますか？

1. 通行の確保 2. 防虫等 3. 落ち葉等の清掃 4. 特にない 5. その他（ ）

回答番号	1	2	3	4	5	無回答
回答数	28	62	65	32	3	16
	20%	45%	47%	23%	2%	12%

設問 13 植物を育てる際にやってほしい援助はありますか？

1. 相談コーナーの設置 2. 植木市等の開催 3. 土や肥料の作り方講座
4. 防虫や病気の予防講座 5. その他（ ）

回答番号	1	2	3	4	5	無回答
回答数	15	27	13	30	11	68
	11%	20%	9%	22%	8%	49%

設問 14 植物を育らっしゃらないのはなぜですか？

1. 植物を育てる場所や植木鉢などが無い 2. 植物を育てる時間がない
3. 植物が嫌い 4. 育て方がわからない 5. その他（ ）

回答番号	1	2	3	4	5	無回答
回答数	12	9	2	2	6	1
	36%	27%	6%	6%	18%	3%

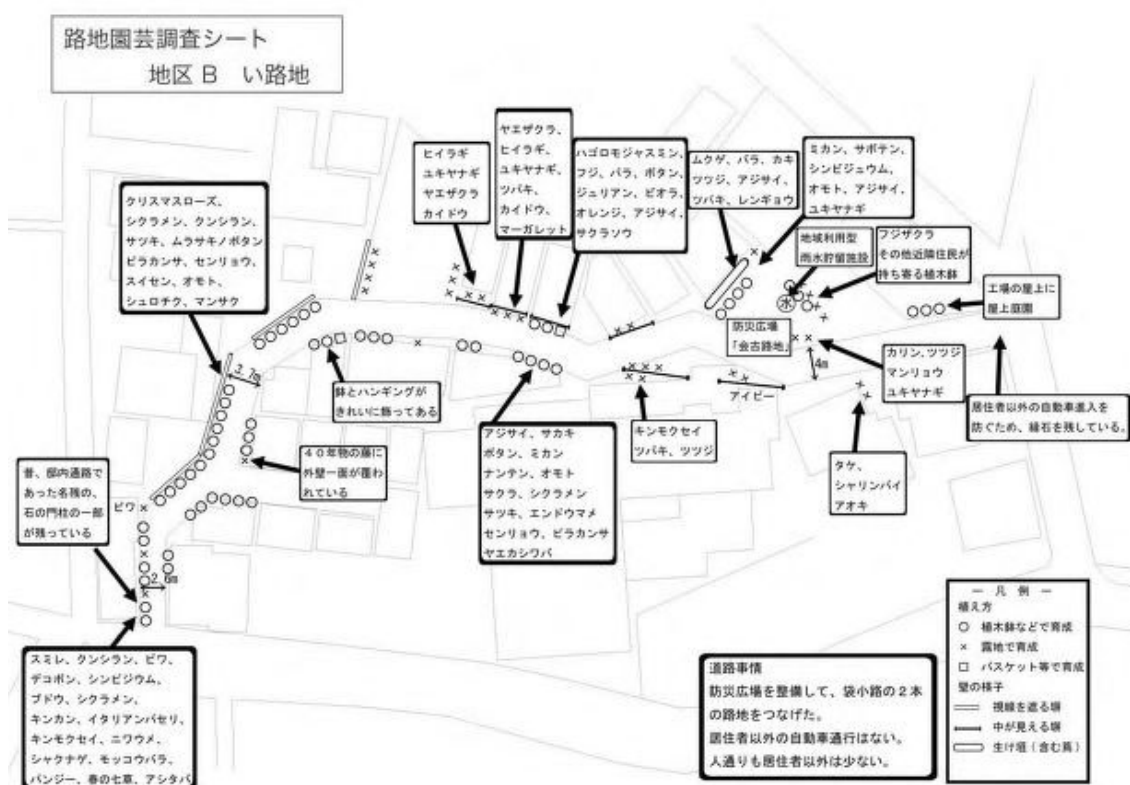
設問 1 5 路地園芸について、どのように思われますか？

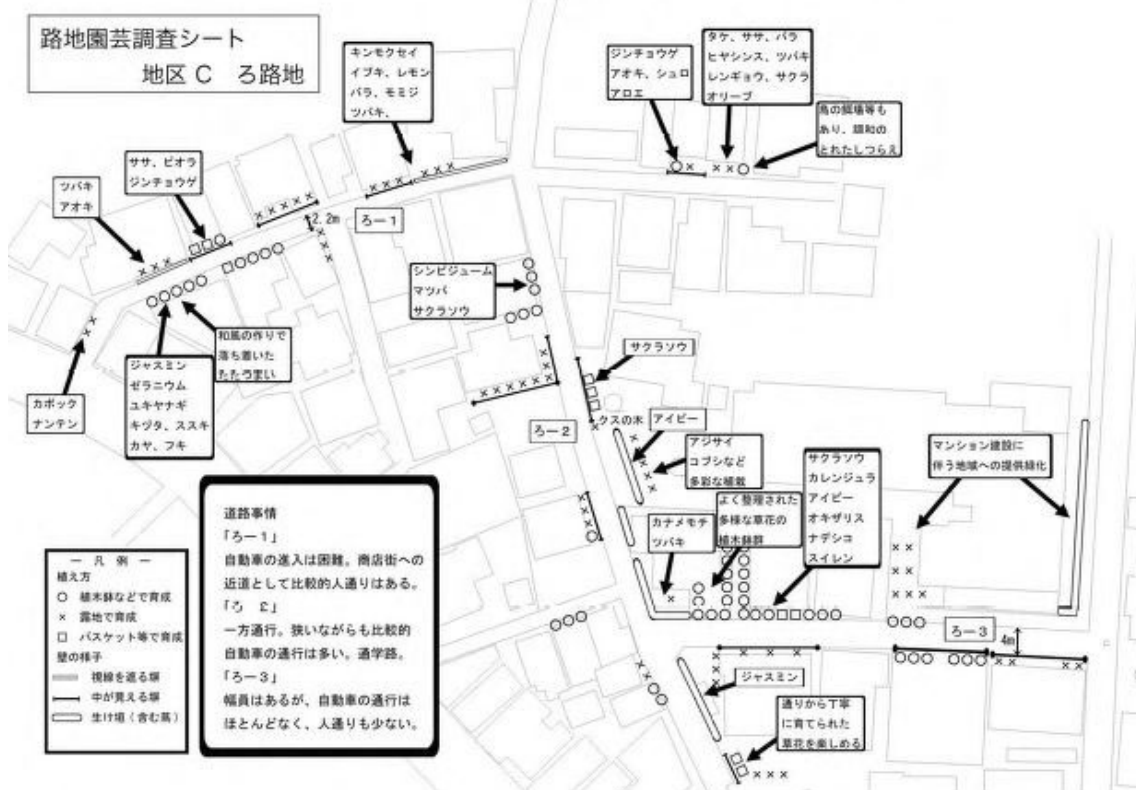
1. やってみたい 2. 良いことだと思う 3. 迷惑だと思う
4. 特にない 5. その他

回答番号	1	2	3	4	5	無回答
回答数	9	50	5	18	0	1
	27%	152%	15%	55%	0%	3%

この質問は植物を育てていない人への質問だったのだが、育てていると回答した人からよいことだと思うという回答が多数あった。それらを除くと 13 人が良い事だと思うと回答している。

向島路地園芸—現地調査結果





路地調査シート
地区E は路地

は-01

は-02

は-03

は-04

は-05

は-06

は-07

は-08

は-09

は-10

は-11

は-12

は-13

は-14

は-15

は-16

は-17

は-18

は-19

は-20

は-21

は-22

は-23

は-24

は-25

は-26

は-27

は-28

は-29

は-30

は-31

は-32

は-33

は-34

は-35

は-36

は-37

は-38

は-39

は-40

は-41

は-42

は-43

は-44

は-45

は-46

は-47

は-48

は-49

は-50

は-51

は-52

は-53

は-54

は-55

は-56

は-57

は-58

は-59

は-60

は-61

は-62

は-63

は-64

は-65

は-66

は-67

は-68

は-69

は-70

は-71

は-72

は-73

は-74

は-75

は-76

は-77

は-78

は-79

は-80

は-81

は-82

は-83

は-84

は-85

は-86

は-87

は-88

は-89

は-90

は-91

は-92

は-93

は-94

は-95

は-96

は-97

は-98

は-99

は-100

— 凡 例 —

植え方

○ 植木鉢などで育成

＊ 露地で育成

□ バスケットなどで育成

壁の様子

—— 視線を通る壁

—— 中が見える壁

○ 生け垣（含む藁）

道路事情
自動車の通行は不可能。
人通りも居住者以外は
ほとんどない。

盆栽風の
箱庭つづらえ

ニキヤアキ、プリムラ
ツツジ、センリョウ
レンギョウ、ウメ
ブドウ、ツキミソウ
タツナミソウ、ナンザ
ザラニユーム。

クサナシ、ニューノビ
ナシテン、オキザリス
ヤマブキ、サンショ
ブリムラ、ツワブキ
ハツコキカズラ

キザリス、ブリムラ
キザナギ、ラン
ペンダー、サクラソウ
ユサンゴ

なる米、ツツジ
ヤスミン

[illegible]

路地図芸調査シート
地区H ほ路地

上十条における路地園芸の実施

1 トライアルの目的

路地(街なかの昔からの狭い道)のある街の多くは、安心して暮せるコミュニティが育っている。商店街では、狭い道に並ぶ店が賑わいある界隈を生み出し、住宅地においては子供の安全な遊び場であり、住民たちの井戸端会議の場であり、暮しの場の延長である。

その街で生活する人々の息づかいが聞こえてくるような路地は、日本の都市の原風景のひとつであり、その路地の鉢植えや見越しの松などは、路地の景観構成要素として大きな役割を果たしていると考えられる。また、都市の環境要素としても大きな役割を果たしていると考えられる。

江戸時代には、庶民の中に園芸文化が根付き、庶民の中から新品種を生み出すなど文化的にも高い水準にあったといわれている。

私たちは、この江戸園芸文化を踏まえて、路地の園芸を推進するとともにその技術を高めることによって、都市の原風景の一つである路地景観の向上をめざすとともに、路地発信の文化を育成していきたいと考えた。

本トライアルは、「東京都北区上十条一丁目西町会」及び「十條あすみの会」の協力のもと、北区環境課及び(財)北区まちづくり公社の後援を得て行った。主催は「東京都北区上十条一丁目西町会」と「十條あすみの会」及び「全国路地のまち連絡協議会」の共催とした。

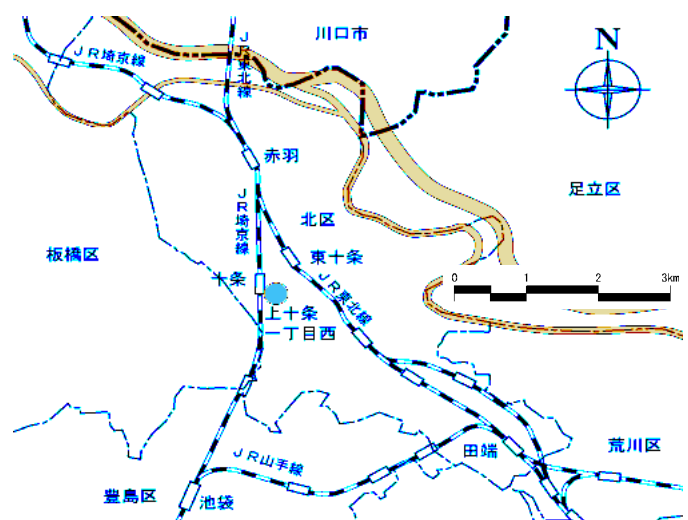


2 対象地区

本トライアルは、「東京都北区上十条一丁目西町会」会員及び「十條あすみの会」会員を中心として行った。対象地区は「東京都北区上十条一丁目西町会」全域とし、実践トライアルは対象地区内の路地とした。

1) 十条地区の位置

対象地区が含まれる東京都北区十条地区は、東京区部の北部に位置し、ＪＲ埼京線十条駅を中心とした地域である。十条地区は、ＪＲ埼京線十条駅から池袋に２駅７分、新宿に１１分、渋谷に１７分となっている。また、隣接するＪＲ京浜東北線東十条駅からは東京駅に２３分と都心部に非常に近接した地区である。



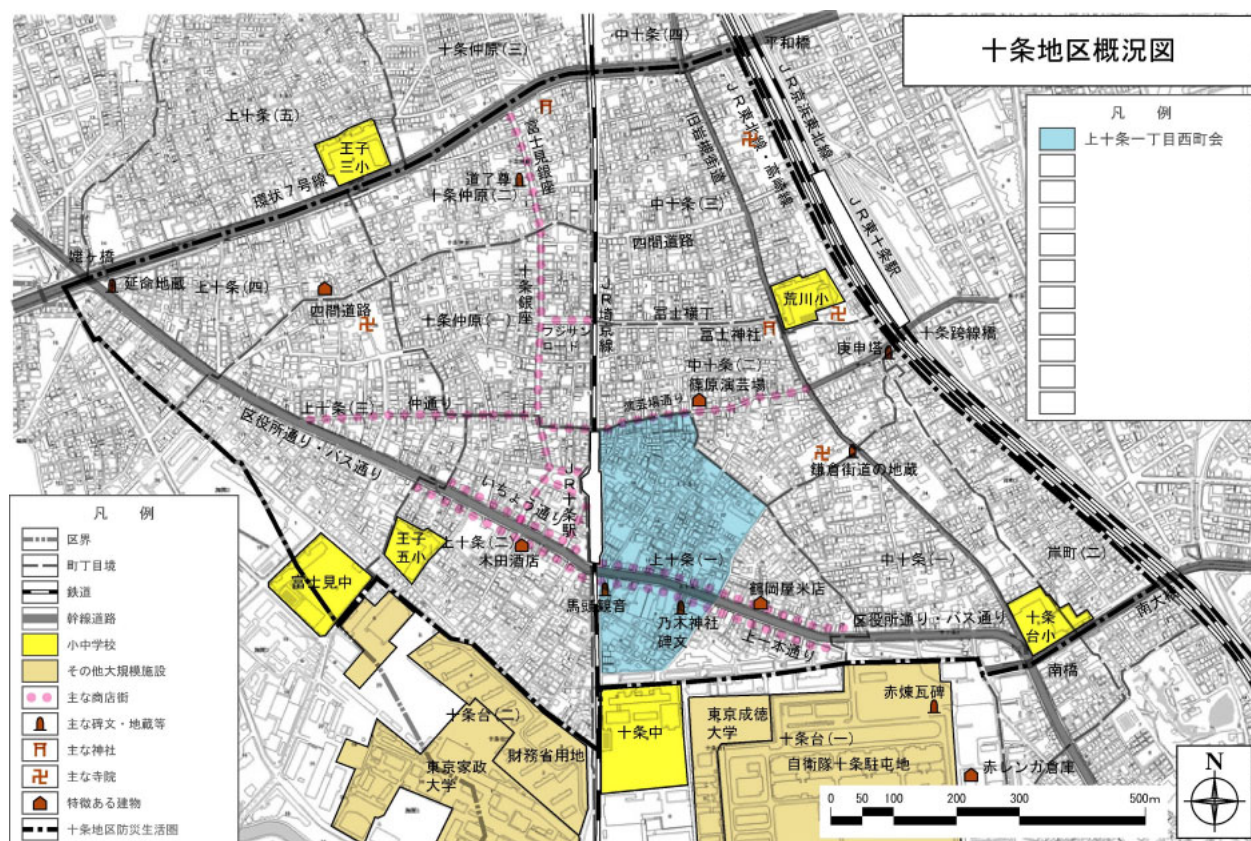
2) 十条地区の概況

十条地区は、東京の環七沿いに広がるいわゆる「木造密集市街地」の一つであり、4 m未満の狭隘道路を主体とした脆弱な都市基盤の上に、木造住宅が密集している地区となっている。このため、十条地区では、十条地区 95ha(下図参照)において都の防災都市づくり推進計画(旧防災生活圏促進事業)が進められているとともに、密集事業(住宅市街地総合整備事業：上十条三・四丁目地区、上十条一丁目・中十条一～三丁目地区)などの密集市街地を改善する事業が展開されている。

また、十条地区の南側及び東側JR東北線沿いは崖地となっており、十条地区そのものは台地上に位置している。特に、南側崖沿いの地区は、旧陸軍に利用された大規模用地であり、現在は学校や公園、財務省用地、自衛隊十条駐屯地等が立地しており、これら一帯が都指定の避難場所となっている。

十条地区には、その周辺も含めて大規模な商業施設の立地がなく、十条駅を中心としていわゆる近隣型の商店街が縦横に発達し、賑わいのある商店街となっている。

なお、地区の東側に隣接する東十条地区は、JR東北線と崖により分断され十条地区とは別の生活圏となっている。



3) 上十条一丁目西地区

今回のトライアルの対象地区である「上十条一丁目西町会」は、JR 埼京線十条駅の東側に隣接する町会である。また、まちづくりに対する意識と理解の高い町会である。

これまでに、防災マップの作成、広場等整備のワークショップ、防災広場やまちづくり用地の自主管理、商店街道路のプランター花植えなどを行っている。また、この町会を母体として、地域が安心して住めるようにと、防災・防犯ボランティア団体「十條あすみの会」を結成し、会員は周辺の町会に広がっている。この地区では、上十条一丁目西町会と上十条一丁目本通り商店街及び十條あすみの会が密接に連携してまちづくりを進めているとともに、十条地域のまちづくりイベント「十條遊縁市」の運営の中心的な役割を果たしている。

上十条一丁目西町会およびトライアル対象路地等の範囲・位置関係は下図の通りである。



3 トライアルの方法

本トライアルは3回のワークショップで構成した。

1) 第1回ワークショップ

江戸における庶民の園芸文化について、賀来宏和氏(都市環境プロデューサー:(株) グリーンダイナミクス代表取締役.)を講師に迎えて「江戸の園芸を知る」と題して講演を行った。

この目的は、一般市民の活動を高めることによって世界に誇れる文化になることを認識してもらうとともに、まちの視点で園芸などを考えてもらうきっかけづくりにおいた。また、質疑応答において、知っていたつもりの園芸手法等の再認識を促し、当ワークショップへの興味を増すことを図った。

2) 第2回ワークショップ

上十条一丁目西地区内を「路地園芸探検」と題して歩き、地区内の園芸の状況を視察した後、トライアル対象路地を視察し、実際の園芸方策について、参加者により議論した。

路地園芸探検においては、近所の園芸を知ることにより、単独で行っている園芸をネットワークする機会の提供を図った。これにより、住民相互の園芸に関する情報交換を促し、園芸技術の向上につなげていく。

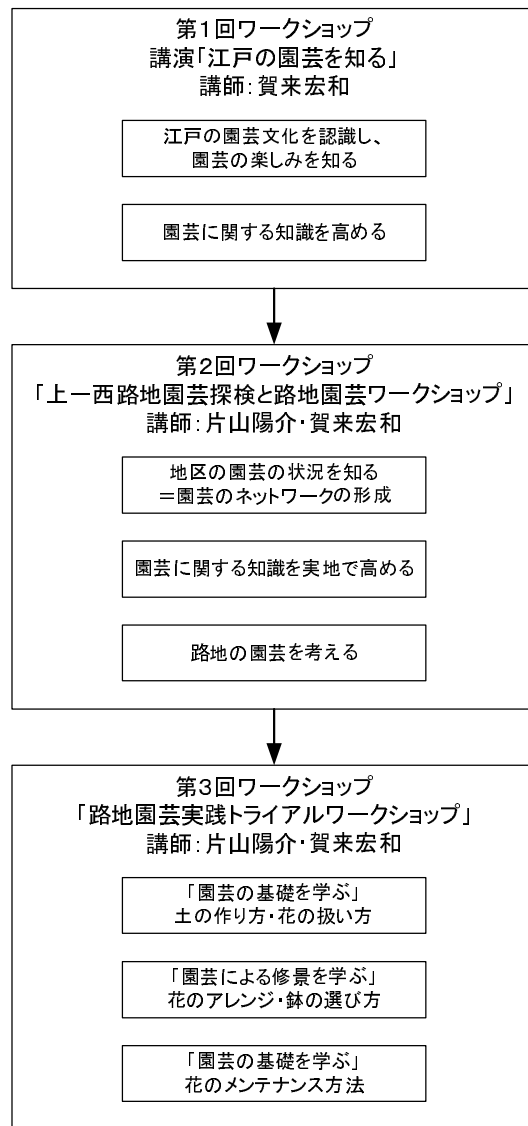
また、トライアル対象路地についての修景方策について、講師を交えながら住民同士で意見交換しながら試行錯誤を行った。

3) 第3回ワークショップ

第2回に検討した修景方法を実践した。

最初に、今回選んだ花の特徴や取扱について講師より学び、講師の植え方の見本を参考に、住民自身により実際に植え付けや鉢植えの修景等を行った。

最後に、住民の園芸作業について講師より問題点等の指摘を行い、今後のメンテナンス方法について意見交換を行った。



実施フロー

4 第2回ワークショップにおける参加者提案

●高尾班の提案（ポストイット）

J コーポ周辺

- ・ブロックの上に花を並べる
- ・朝顔などのツル物
- ・トラックが入る(引っ越しのじやまになる)
- ・”はじ”を少しアスファルトを止めて”砂利”
- ・黒で統一 木枠
- ・2m位ハンギング

T 邸周辺

- ・土の入れ替えしよう
- ・土が固い ※石炭ガラ
- ・陶器、磁器がいい

Y 邸周辺

- ・セットバックしているので、(黒のフェンスに合わせて黒い台の上に鉢)
- ・移動しやすいものにする。板は2つに。

H 邸周辺

- ・半透明、向こうが見える
- ・敷地内に花を

井戸周辺

- ・井戸の隣にポイントになるものを
- ・花だけでなく、道具も置くと絵になる

その他

- ・日照が限られている、葉物か。
- ・きっちり置くときれい

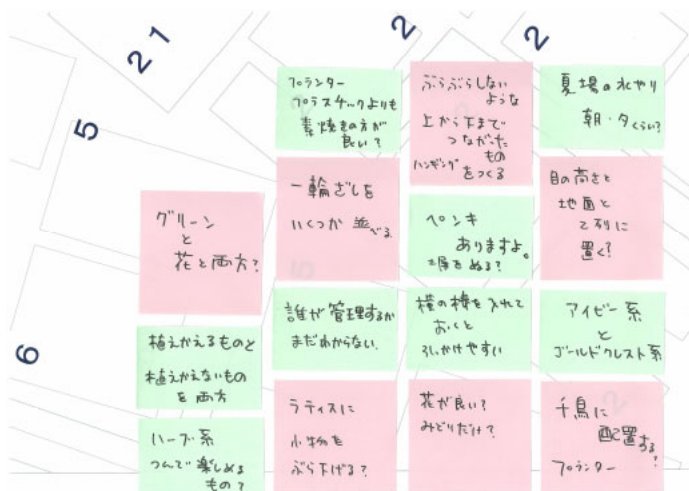


● 沖田班の提案 (ポストイット)

Ｊコーポ前

植え方

- ・目の高さに3～4つプランターを並べる
- ・目線のところと下との2段にする
- ・塀につるだけでは危ない？
- ・塀から下げた時危ないので、下も固定
- ・千鳥に配置する？
- ・特注のハンガーで
- ・ラックに横の棒を入れておくと引っ掛けやすい
- ・ラティスに小物をぶら下げる？
- ・一輪挿しをいくつか並べる



植える植物

- ・朝顔などは終わった後次が問題
- ・花が良い？ 緑だけ？
- ・アイビー系とゴールドクレスト系
- ・グリーンと花と両方
- ・植え替える物と植え替えない物を両方
- ・ハーブ系、摘んで楽しめるもの？



植える鉢、プランター

- ・小さなポットは夏の磁器や植える物が大丈夫？
- ・プランターの幅は両脇の電柱分くらいなら邪魔にならない
- ・あまり大きな物は手入れが大変
- ・プランター、プラスチックよりも素焼きの方が良い？

管理

- ・夏場の水やり、朝夕2回くらい？
- ・誰が管理するのか、まだわからない

その他

- ・予算18万円のできるもの
- ・塀をペンキで塗る？

5 路地園芸の実施

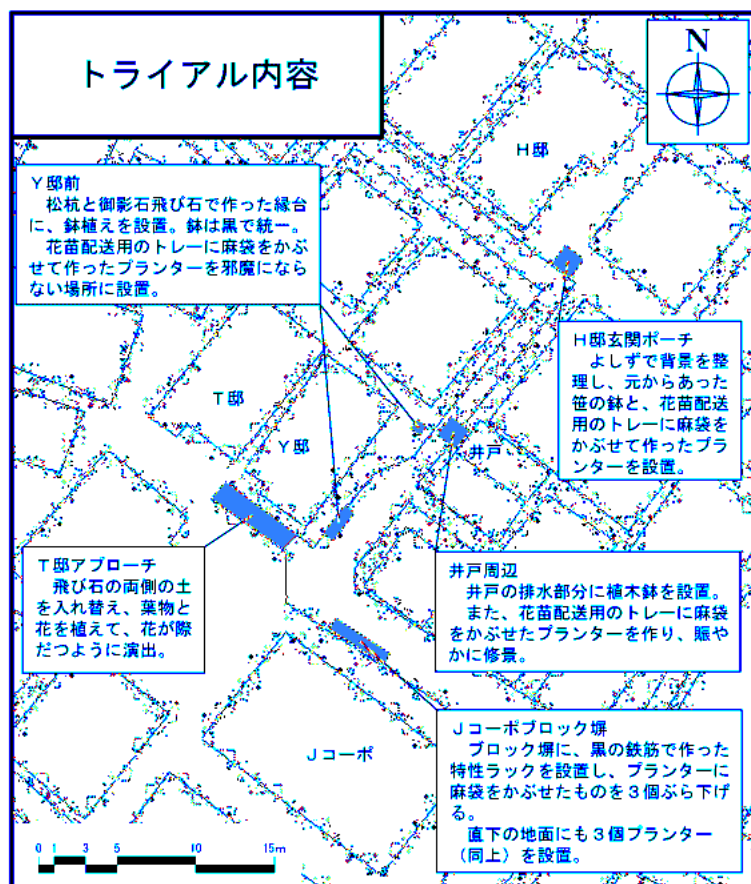
1) トライアルの従前従後

基本的な修景の方向について

第2回ワークショップ終了後、ワークショップにおいてで体験を踏まえて、実践トライアルにおいてどのような修景を行うか、講師、事務局、十條あすみの会主要メンバー及び公社スタッフで協議した。

修景の方向性としては、以下のことがあげられた。

- 景観上好ましくないものを園芸によって修景するーJコーポブロック塀、井戸周辺
- アイストップとなる部分を修景する
井戸周辺、H邸前
- 景観を整理するー 井戸周辺、H邸前
- 今の景観を活かす・レベルアップする
Y邸前・T邸アプローチ



従前従後

i Jコーポブロック塀

《現況》

Jコーポブロック塀は、ブロック塀の修景を目標としたが、下記のような問題点が考えられた。

- 塀につり下げの方法は地震などに際して塀が倒壊するのではないか。
- アパートの引越やその他工事車両等、車両がブロック塀の途中まで侵入してくる。
- ブロック塀の路地の奥側に、電柱が立っていることと、塀の裏側に物置があり、塀に何らかのものを取り付ける場合、若干入口側に寄せなくてはならない。

《修景の方向》

ブロック塀に特注ラックを設置し、プランターや鉢を置く。

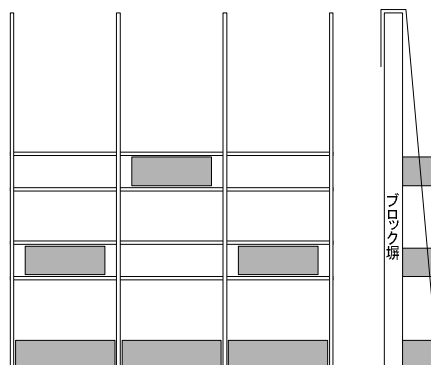
- 塀につり下げるラックを町内の鉄工所に依頼し、特注で作る。ラックに、プランターをぶら下げるハンガーをかけ、そこにプランターを設置する。

ラックは転倒しないように、電柱の幅と同じ長さで足を出し、塀によりかける。

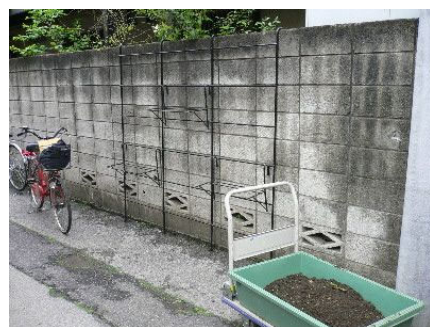
- プランターは白色ではないもの、できればテラコッタ製のものが良いが、重量と価格の面から白色のものにコーヒーマグを巻き付ける。
- プランターは、3台ぶら下げ、地面にも3台置く。



ブロック塀従前



ラックのイメージ図



鉄筋で作ったラックを設置

《修景の実践》

- 特注ラックは鉄筋で作成し、足を出すものではなく、地中に埋めて安定性を高めた。
- プランターは白色(北区十条まちづくり担当課提供)のものに、コーヒー豆専門店より無償提供を受けた麻袋で装飾した。麻袋は端部を花の形に折っている。
- ラックの黒とプランターの麻袋が目立たないため、葉の緑と花の色を引き立てている。



プランターに麻袋を巻く



ラックにプランターを設置



T 邸アプローチ

《現況》

幅員 0.8mほどの玄関アプローチに敷石が並べてあり、その敷石の両側に桜草などが植えてあり、現況においても美しいアプローチとなっている。

しかし、土がやせていることに加え、その下部は石炭ガラとなっていることから、その改善が求められる。



《修景の方向》

- 土を 10 cm程度入れ替えて、土壤改良する。
- 葉ものと花ものを組み合わせて、より豊かなアプローチとする。

従前

《修景の実践》

- 土を 10 cm程度除去し、新たに培養土が6、完熟腐葉土が3、完熟牛糞堆肥が1で混ぜた土を入れる。(他の鉢やプランターも同じ)
- タイム等の地被植物を植え、葉物を加えることにより、豊かさを演出できたとともに、葉の緑が花の色を引き立てている。



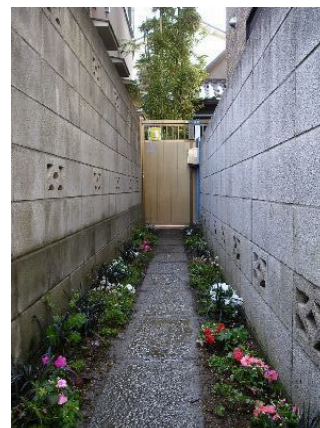
土を入れ替え



植物を仮置き



一斉に花植え



完成

iii Y邸前

《現況》

大理石様のブロック2段積みの上に黒いフェンスが設置されており、シックな雰囲気形成している。2項道路は後退済み。すっきりしているがうるおいがない。

《修景の方向》

T邸と井戸をつなぐポイントをつくる

- 2段積みのブロック部分に収まるように、門扉を挟んで2箇所低い縁台を置いて、その上に鉢を並べ、フェンスの冷たい表情を緩和する。
- 縁台はフェンスに併せて黒とし、足は石などを使って大理石様のブロックに併せる。
- 鉢(陶器、磁器、素焼き等)に花を植える。鉢カバーをつくる。鉢は統一する。

《修景の実践》

- 路地の奥側の縁台は、居住者が自転車等を置くことがあり取りやめ、足の石は2段重ねとし、縁台の板は1枚は背板として活用した。
- 縁台の板は焼き杉杭の先端をカットして4本を束ねたもの。カットした先端部分は、焼いて色調を整えた。足の石は庭の飛び石用の丸井大理石を用いた。
- 鉢は色を黒で統一したが、大きさは植える花に併せて統一はあえて避けた。一部、輸送時に欠けた鉢があったが、垂れ下がる葉ものを植えて活用した。
- 奥側の縁台が設置できなかったが、一番奥に花輸送用のトレーに麻袋を巻き付けたプランターを作成し、置いた。



従前



縁台を2台設置したところ



実際の設置状況、縁台の板1枚は背板に、足は2段に



Ⅳ 井戸周り

《現況》

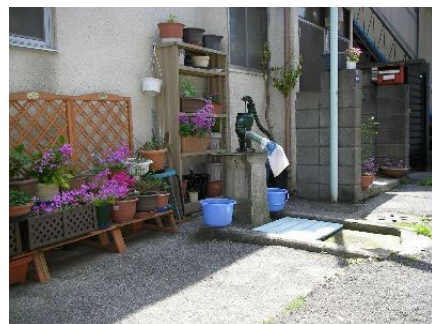
通行人の視線を集めるポイントである。視察時点からはかなり整理され花も咲いているが、まだ、空の鉢や園芸の道具が置かれていて煩雑なイメージ。

《修景の方向》

- 井戸の横にポイントになるよう大きめの鉢を配置。
- 建物の棚に園芸を楽しんでいる感じを小物で表現。

《修景の実践》

- 井戸の脇に大きめの鉢(ナスタチウム)を置くとともに、苗の入っていたトレイで作ったプランターも配置。(その後地元住民により一部鉢を入れ替え)
- 建物の棚については、プライベートな部分なので今回は手を加えない。(今後の展開に期待)



従前



従後

←トライアル終了直後
1ヶ月後→



v H邸前

《現況》

路地の突き当たりであり、アイストップとなる重要な位置を占めているが、色々な植物や生活用品が置かれ若干乱雑な景観となっている。

《修景の方向》

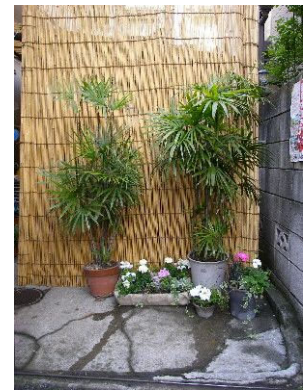
- すだれなどでプライベートな部分と緑をみせる部分を隔てる。
- 現在、葉物だけであるが色のある植物を配置する

《修景の実践》

- よしずを立ててプライベートの部分を隠す。
- よしずの手前に緑の笹(既存)と、色が際だつ花もの(新規)を置いた。



←従前



従後→

2) 路地園芸トライアルのまとめ

今回のトライアルを終えて、以下のような成果と課題を得た。

成果

- まちづくりに関心の少ない住民のまちづくり活動への参加の契機
一般的にまちづくりに関心を持っている住民は少ない。今回、園芸を切り口として、まちづくり活動や日常的な町会活動に参加する機会が少ない住民が、まちづくり活動のフィールドに参加する契機を提供できたと考える。
- 異分野交流
前項に関連しているが、まちづくりと異分野の専門家とのタイアップによるまちづくり活動へのアプローチ方法を提供できたと考える。
- 身近な修景方策のプレゼンテーション
今回のトライアルは、大きな予算をかけずに実施しているとともに、身近な材料を活用して修景を行っている。参加した住民からも、こんなにきれいになるとは思わなかったという感想が聞かれるとともに、通りかかる人からきれいになったねと声をかけられるそうである。
- まちの視点からの園芸
園芸を個人の楽しみとして行っている住民は多い。しかし、今回まちからの視点に立って園芸を行った。その結果、通りかかった住民からきれいだと評価されたと、参加した住民から謝辞をいただいた。
- 園芸に関する技術・知識の普及
路地園芸探検の結果からも園芸を行っている住民は非常に多いが、これらの住民は独学で行っている場合が多いと考えられる。今回のワークショップで、土の配合や太陽光の当て方、植え方など様々な園芸に関する講義あるいは質疑応答が行われた。園芸に関する技術や知識に対して、住民にニーズがあることが確認されたとともに、今回のワークショップで参加者に対して技術や知識の向上が図られたと考える。
- 園芸のネットワークの形成の土壌づくり
路地園芸探検により、同じ町内会でどのような園芸がされているかが、一部ではあるが参加者に認識された。町会では、町内の路地園芸マップの作成を模索するに至っている。こういった取り組みを機会に、住民相互の園芸に関するネットワークの形成が期待できる。

残された課題

○ 2 項道路及び道路占有

今回の路地園芸トライアルは、2 項道路の問題や道路占有の問題を棚上げして行った。実際に路地園芸を实践した路地も 2 項道路であり、Y 邸前は 2 項道路後退した部分に縁台を設置している。今回の配慮点としては、道路上に設置するものは、簡単に移動可能なものとして行った。

○ 日常の園芸活動への対応

今回の花の種類の選定は専門家にゆだねた。このため、一般的に知られていない種類や、似通った名前の花など、参加者もわからなくなっているものも多い。このため、通りがかった住民への説明や、参加者の日常のメンテナンスなどが難しい場合がある。もう少し、身近な花などで行ったほうが、解りやすかった部分もある。

○ 四季の都市景観の演出

今回使用した花の種類は、植え替えなどの手間の少ない秋頃まで咲く花となっている。これに加えて、四季の花のアレンジや展示位置のローテーションなどを提示できると、四季折々に多彩な表情を見せる都市景観の演出を提示できたと思う。

3) 終わりに

まちづくりの分野と園芸の分野の専門家とのコラボレーションによる、まちづくりへのアプローチを試行した。従来、まちづくりという場に参加しない住民の参加が見られたことから、一定の成果があったと考える。今回は、従来からまちづくりに理解のある上十条一丁目西町会で行ったが、まちづくりの土壤がない地域においての地元に入っていく一つの切り口を提示できたと思う。

ワークショップの実施においては、地元の十条一丁目西町会及び十條あすみの会の皆さんの積極的な参加がなくては実現しなかった。地元の皆様のご協力とご理解に深く感謝します。

また、株式会社グリーンダイナミクスの賀来宏和代表取締役及び片山陽介氏には、大変忙しい時期に講師をお引き受けただけではなく、様々なノウハウの提供とともに、土づくりなどに一緒に参加していただき、大変感謝しています。

最後になったが、今回のトライアルを実施する上で、活動費を助成していただいた(財)都市化研究公室に感謝するとともに、北区環境課には当初予定より多くの花苗などを供給していただき感謝します。